

北陸技術士懇談会と私の技術士活動

竹内 勝信

(TAKEUCHI Katsunobu)

国土監理株式会社 技師長

技術士〔建設部門、総合技術監理部門〕

コンクリート診断士、土壌汚染調査技術管理者

〔主な経歴〕

北陸技術士懇談会 理事

富山県立大学 非常勤講師

(株)アーキジオ



I. はじめに

私が技術士という資格を初めて知ったのは、真柄建設(株)に入社して5年目、上司であった西本氏の技術士試験合格が契機であった。技術課・技術研究所に所属して現場支援、技術研究を行っていたこともあり、入社8年目・実務経験7年で技術士試験に初挑戦した。しかしながら、勉強不足で1回目、2回目とも不合格であった。その間に上司の筒井氏、熊谷氏が次々と合格し、次は自分の番だとプレッシャーを感じた。しかし、先に合格した上司らの厳しくも適切な指導・助言もあり、平成3年度・3回目の受験で何とか合格することができた。

II. 北陸技術士懇談会での活動

1. 懇談会との出会い

私と北陸技術士懇談会との出会いは、多くの皆さんと同様に、技術士に合格した後に開催される「技術士合格祝賀会」である。新規合格者として、現在と同様に壇上に上がって、所属、合格部門、今後の抱負などを話したはずであるが内容は覚えていない。祝賀会の後、日本技術士会よりも年会費が格段に安いことから、平成4年度から北陸技術士懇談会の会員になったと記憶している。

このような経緯で懇談会の会員となったが、同じ年に金沢大学大学院の博士課程に入学し、アルカリ骨材反応研究の第一人者である川村満紀教授に師事して、コンクリートの研究を開始した。そのため、懇談会の総会や講演会にはほとんど参加できず、合格祝賀会にだけ毎年参加していたように思う。平成7年3月に博士を取得した後は、祝賀会だけでなく総会や講演会にも時々参加する一般的な会員であった。

2. 受験講習会の開催

その後、平成10年に地元富山の(株)中部日本鋳業研究所＝現在の(株)アーキジオに転職をした。これを契機に、北陸技術士懇談会の技術士受験講習会のお手伝いを始めた。この講習会は、北電産業(株)＝現在の北電技術コンサルタント(株)の稲松氏や有賀氏が中心となり、北陸の技術士を増やしてレベルアップを図る目的で、毎年富山

で開催されていた。

平成12年からは、北陸技術士懇談会の理事・富山県支部の事務局として、写真-1に示すような技術士受験講習会を開催し、恩送りをする事となった。



写真-1 技術士受験講習会の状況

試験の時期に合わせて、毎年4月と5月に受験講習会、6～8月に添削指導、12月上旬に模擬口頭試験を行うなど、年間を通じてバックアップをさせて頂いた。講習会では、稲松氏、有賀氏、小西氏、小林氏、桜井氏、山本氏、竹沢氏などに加え、毎年新規合格者にも講師をお願いした。この間、富山だけでなく石川や福井からの受講生と交流することにより、人脈が広がったと感じている。また、自ら講師や添削指導を行うことで、様々な分野の知識が身に付いたと感謝している。

北陸技術士懇談会としての富山での技術士受験講習会は、日本技術士会の指導により平成23年度をもって終了せざるを得なくなった。しかし、この受験講習会は、恩送りの精神を大切に、北陸の技術士の増加・レベルアップを目的として、岩田氏を事務局とする「はくりく技術士未来研鑽会」へと引き継がれている。

日本技術士会は、技術士試験の実施機関であることから、役員や関連団体が受験講習会に関わることを禁止している。しかし、技術士会の活性化・レベルアップのためには、関連団体や受験講習会に対して、もう少し寛容で柔軟な姿勢を取って頂きたいと思っている。

Ⅲ. 懇談会以外の活動

1. 富山県技術士会での活動

平成10年には、富山県内の技術士が集まって活動する富山技術士ワーキンググループが発足した。このワーキンググループは、その後紆余曲折を経て、森田会長が中心となって平成14年に富山技術士交流研究会、平成16年に日本技術士会北陸支部富山県技術士会として正式に設立された。

その後、日本技術士会の公益社団法人化に伴って北陸本部提携富山県技術士会となったが、平成24年7月に公益社団法人日本技術士会の正式な組織として北陸本部富山県支部へと改組された。

森田会長は、富山県技術士会の設立・運営、富山県支部への改組、平成27年富山県での第42回技術士全国大会(北陸・富山)の開催、北陸技術士懇談会の監事など、私利私欲を捨てて技術士活動に尽力された方であり、私が尊敬する人物の一人である。

私は、北陸技術士懇談会を通じて森田氏と知り合い、富山県技術士会及び富山県支部では、森田会長の下で約10年間に渡って事務局として協力をさせて頂いた。また、平成27年に富山県で開催された第42回技術士全国大会(北陸・富山)では、編集・分科会委員長として、大会誌・報告書をまとめさせて頂いた。森田会長には遠く及ばないが、富山県での技術士活動に少しは貢献できたのではないかと思っている。

2. 技術者倫理の講義

技術士講習会等で知り合った小林氏から、富山大学の工学倫理の講義を引き継いだのは、平成18年であった。大講義室で2学科約160名を相手に、出欠確認、講義、レポート・テストの採点など非常に大変であった。しかし、真面目に講義を聞いて熱心にレポートを書いてくれる学生もいて、それが支えとなっていたように思う。

また、富山大学での講義が縁で、平成20年からは、富山県立大学でも技術者倫理の講義を行うようになった。この時期には、日本技術士会の技術者倫理座談会や富山県土木部の研修、北陸電力(株)の講演会でも技術者倫理の話させて頂いた。

技術者倫理の講義は、過去の事件や事故を事例として、学生にどのような行動を取れば良いのかを教える授業である。しかし、講義のための事件や事故の事例研究は、自分自身のモラルや倫理の確認にもなり、学生に教えることが自分の継続研鑽にも繋がっている。

富山大学での講義は、平成24年を最後に北野氏に引き継いだ。富山県立大学での講義は、現在も続けている。可能であれば、もう少し続けてみたいと思っている。

3. 仲間との技術鑑定

私が初めて技術鑑定を行ったのは、平成13年である。古くからの知人を通じて、富山県警から建設現場における死亡事故の原因鑑定の依頼があった。原因は、単純なミスであったが、それを分かりやすく説明するのが大変であった。これを契機に警察や裁判所から、土木・建築関係の依頼が何件もあり、技術的な鑑定を行った。

その話を聞きつけた小林氏から、複数分野の技術士等からなる技術鑑定グループの仲間にならないかとの誘いがあった。お手伝い程度であれば協力しますと気軽に参加したのだが、様々な事件・事故の鑑定依頼があり、私も主担当として何件かの鑑定をさせて頂いた。

小林氏については、機械部門の技術士で、技術士受験講習会や技術士活動に熱心な人物という印象であった。しかし、技術鑑定の仲間になってからは、広いネットワークがあり、非常に積極的で営業力があるということが分かった。また、自動車の火災事故では、写真を見ただけで原因と欠陥を指摘し、メーカーに被害者との和解とリコールをさせたのには感服したものである。

技術鑑定では、他にも大藪氏、藤島氏、若鳥氏など、多くの方々と協力して様々な技術鑑定に関わらせて頂いた。建設部門だけでなく他部門の勉強もさせて頂くと同時に、裁判の流れや対応についても学ばせてもらい大変感謝している。

Ⅳ. まとめ

これまでに、私が仕事や受験講習会で関わった技術者は数え切れないほどいる。しかし、技術士試験に合格した後、北陸技術士懇談会や技術士会の活動に積極的に参加する若い人は、非常に少ないのが残念である。

技術士懇談会や技術士会への参加は、ある程度のお金が必要であり、若い技術者には難しいのかもしれない。しかし、技術士となったからには、その余裕を作り出し、専門分野の技術を磨くと同時に他部門の知識を身に付け、仕事以外のネットワークを広げることが大切なのではないだろうか。

「北陸技術士懇談会と私の技術士活動」と題して書き始めたが、いつの間にか私の技術士活動と考えがメインとなってしまった。しかし、私の技術士としての活動は、技術士試験に合格して北陸技術士懇談会へ入会したことが原点であったと思う。懇談会のネットワークを通じて持ち込まれる様々な話に、積極的に参加したことが現在の私を作ってくれたと考えている。その意味から、北陸技術士懇談会には大変感謝している。

若い技術者・技術士の皆さんには、多くの先輩諸氏が50年間も継続してきた北陸技術士懇談会や技術士会の活動に積極的に参加して頂いて、豊かな技術士人生を送ってほしいと願っている。